

-----  
[ 成果情報名 ] イチゴ「あまおう」の普通促成栽培における黒寒冷紗を用いた花芽分化促進技術

[ 要約 ] イチゴ「あまおう」の普通ポット育苗において、定植前約 1 ヶ月間、黒寒冷紗で被覆することにより、花芽分化期が 4 日程度早くなる。また、花芽分化促進効果は「とよのか」よりも「あまおう」の方が高く、遮光率 59% の黒寒冷紗を二重にして被覆することにより安定する。

[ キーワード ] イチゴ「あまおう」、普通ポット育苗、花芽分化期、黒寒冷紗

[ 担当部署 ] 野菜栽培部・イチゴ栽培チーム

[ 連絡先 ] 092-922-4364

[ 対象作目 ] 野菜                      [ 専門項目 ] 栽培                      [ 成果分類 ] 技術改良  
-----

[ 背景・ねらい ]

普通ポット育苗における「あまおう」の花芽分化期は「とよのか」に比べて遅く、年内の収量が低い。そのため、花芽分化期の早進・安定化による出荷の前進化と年内収量の確保が求められている。

そこで、普通ポット育苗において、育苗後期の黒寒冷紗被覆によるイチゴ「あまおう」の花芽分化促進効果を明らかにする。

[ 成果の内容・特徴 ]

1. 定植前約 1 ヶ月間、黒寒冷紗を被覆すると無被覆に比べ 4 日程度早く 60 ~ 70% と高い花芽分化率となる。また、黒寒冷紗を二重にして被覆すると花芽分化期は 2 年間安定して早くなる。( 図 1、図 2、一部データ略 )
2. 黒寒冷紗被覆による花芽分化促進効果は「とよのか」に比べ「あまおう」の方が高い。( 図 2 )
3. 遮光処理終了時の苗のクラウン径はほぼ同等であるが、黒寒冷紗の遮光率が高くなるほど、葉柄長は長くなる。( 図 3 )
4. クラウン付近の気温は、黒寒冷紗を被覆することにより低下し、遮光率が高くなるほど昇温抑制効果は高い。また、遮光率が高いほど葉温も低い。( 表 1 )

[ 成果の活用面・留意点 ]

1. イチゴ「あまおう」の花芽分化促進技術として活用できる。
2. 黒寒冷紗の遮光率は一重：59%、二重：83% である。
3. 黒寒冷紗は通風性を確保するためハウスのすそをあけて展張する。
4. 観測地点太宰府のアメダスデータで、9 月の平均気温は平年が 22.9、平成 15 年は 24.8、平成 16 年が 24.0 の試験条件である。

[ 具体的データ ]

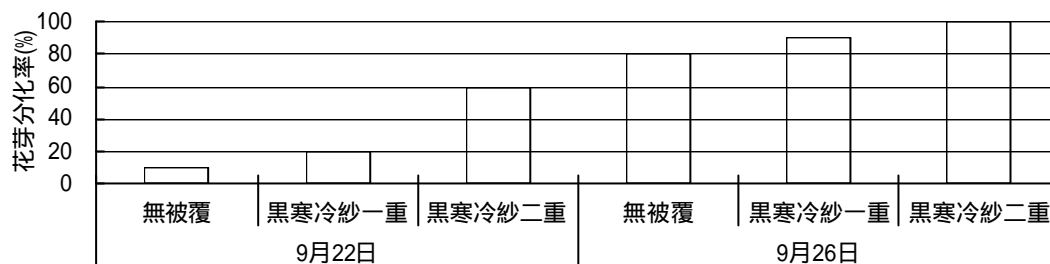


図 1 黒寒冷紗被覆と花芽分化率の推移 (平成 15 年度)

- 注) 1. 肥厚後期以降を花芽分化とした (図 2 も同じ)  
 2. 7月 28日 ~ 8月 26日の期間中窒素濃度 2me/L の液肥を底面吸水した  
 3. 遮光期間は、育苗期間 6月 26日 ~ 9月 26日の後期 (8月 26日から約 1ヶ月間) とした  
 4. 間口 2m、奥行 3m、高さ 1.8m の小型ハウスで試験を実施した

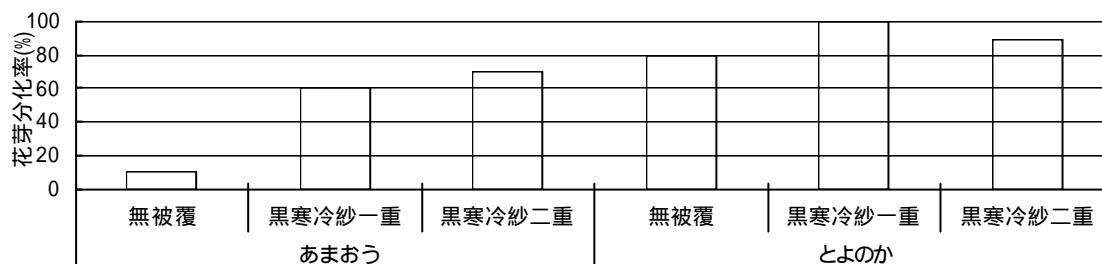


図 2 品種及び黒寒冷紗被覆と花芽分化率(平成 16 年度)

- 注) 1. 調査は 9月 13日  
 2. 8月 20日に最終追肥  
 3. 遮光期間は、育苗期間 6月 9日 ~ 9月 19日の後期 (8月 20日から約 1ヶ月間) とした  
 4. 間口 6m、奥行 4m、高さ 2.5m のハウスで試験を実施した

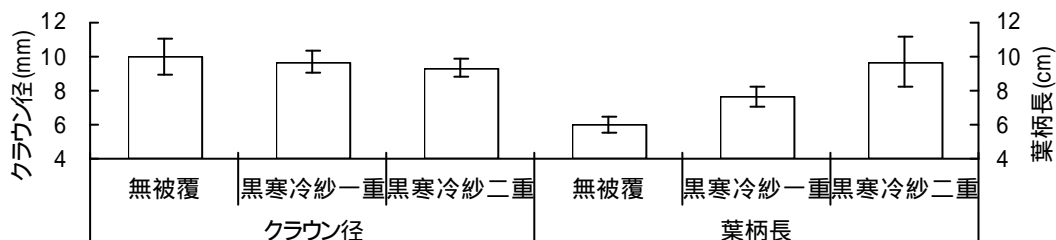


図 3 黒寒冷紗被覆と苗質 (平成 16 年 9 月 15 日調査)

- 注) 1. 葉柄長は新生第 3 葉を調査 2. 棒グラフ中の棒は標準偏差

表 1 黒寒冷紗被覆による気温と葉温の変化 (平成 16 年度) 単位 :

	気温			葉温
	10:00	13:00	16:00	10:00
無被覆	39.9	37.6	36.2	32.1
黒寒冷紗一重	33.0	32.3	35.3	30.0
黒寒冷紗二重	31.4	29.1	34.1	29.4

注) 気温の測定は地表 15cm で測定、葉温は放射温度計により測定

[ その他 ]

研究課題名 : イチゴ新品種「あまおう」の栽培技術確立  
 頂果房の花芽分化促進技術の確立

予算区分 : 経常

研究期間 : 平成 16 年度 (平成 13 ~ 平成 16 年)

研究担当者 : 佐藤公洋・北島伸之